

# つながる協議会への工夫

～ 校内研修会充実のために ～



# もくじ

- 1 協議会の機能
- 2 協議会の「意識化」
- 3 「行動化」を促すには…
- 4 協議会の「見える化」
- 5 学校における協議会の工夫
- 6 まとめ：協議会・授業・「ミニ協議会」

## ～ パンフレット刊行にあたって ～

子どもたちの学力向上を願い、校内研修のテーマを「授業力の向上」とし、授業研究に取り組んでおられる学校がたくさんあります。先生方のご尽力の結果、各学校では多くの成果を出しておられます。

しかしながら、「自分の授業力が今以上に向上するには…」とか、「授業協議会(以後、協議会)と日頃の授業をつなげる方法はないのだろうか」など、今以上に授業力を向上させるための効果的な方法や工夫について質問を受けることが多くあります。

日本の授業研究は、歴史的にたくさんの先生方の知恵が蓄積された結果、その効果性の高さから、諸外国の先生方に注目されるようになっていきます。では、授業研究の何が効果を高めているのでしょうか。

研究授業や協議会など、授業研究は多様なものから構成されています。このパンフレットは、授業研究の中でも協議会の在り方に着目し、協議会を効果的に機能させるための工夫等について示しています。作成にあたってのコンセプトは、①「意識化」、②「見える化」、③「行動化」の3点です。この3点には順序性があるわけではありませんが、協議会の諸機能を高めるためにお互いに強化、補完させる関係にあります。

各学校の授業研究で、協議会の計画や実践・振り返りなどを行う上で参考にしていただければと思います。私たちと一緒に、効果的な協議会を作って行きましょう。



# 1 協議会の機能

## (1) 協議会の機能について



協議会を効果的に機能させるといっても…。そもそも協議会って、どんな機能があるのだろう…？

### ● 協議会の機能とは…

#### ◎ 振り返りの場として…

他の参加者の意見や感想を聞いて、自分(の実践)を振り返ることができます。

#### ◎ 学び合いの場として…

自分を含め、参加者が持っているたくさんの知識やアイデア、それに技術などを交流し、お互いに学び合うことができます。

#### ◎ 人間関係づくりの場として…

学び合いを通して、職場の人間関係を深めることができます。

#### ◎ 共有化の場として…

参加者個々の意見を出し合う中で、参加者全員の思いを共有化することができます。



協議会と一言でいっても、上に示したように多くの機能があります。「授業力の向上」のためにも、協議会の各場面の目的に適した機能を選択しながら協議会を進めましょう！

## (2) 効果的な協議会にするために意識したいこと



効果的な協議会にするために、どんなことに留意したらいいのだろう…？

### ● 効果的な協議会にするために意識したいこと…

#### ◎ PDCAサイクルで駆動させ、協議問題を明確にする！【意識化】

課題解決に迫るため、協議会の計画(Plan)・実行(Do)・振り返り(Check)・改善(Action)を繰り返すこと、そして、特に協議問題を明確にすることが必要です。

#### ◎ 実践(授業)につなげる！【行動化】

協議内容を参加者全員が授業で活用し、その回だけの断片的な協議会ではなく、年間を通してつながっていく継続的な協議会にしましょう。

#### ◎ 理想的な協議会の様子をイメージする！【見える化】

活性化した協議会を継続させるためには、協議会が高まった様子をイメージするための工夫が必要です。

#### ◎ 小さな協議会(「ミニ協議会」)をする！

仲間同士で、または学年会や分掌会・教科会などで、普段からインフォーマルな小さな協議会(「ミニ協議会」)も行い、授業で活用した結果などをお互いに交流することが大切です。



自分の成長を実感するには、知識を得るだけでは不十分だと言われています。新たな知識を実際の場面で活用し、その結果を振り返ることで初めて自分の知恵にすることができます。協議内容を授業で実践し、「ミニ協議会」で交流しましょう。

## 2 協議会の「意識化」



充実した協議会を実現するために、協議会を[計画: Plan] [実行: Do] [振り返り: Check] [改善: Action]のPDCAサイクルで駆動させることが有効です。また、特に[計画: Plan]では、協議題を明確にしておく、協議の深まりが期待できます。ここでは、協議会への参加者を[研究推進者] [授業者] [参観者]の三者ととらえ、研究推進者をはじめ、各参加者がどんなことを「意識化」して取り組めばよいかを示したいと思います。



	研究推進者	授業者	参観者
計画 [Plan]	<ul style="list-style-type: none"> <li>○協議題・内容検討・指導案の検討・協議題の設定</li> <li>○協議方法・形態検討・準備物</li> <li>○授業者・参観者への働きかけ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○十分な教材研究に基づく学習指導案作成</li> <li>○研究主題及び本時のねらいに迫る手だての設定</li> <li>○協議題と研究授業のねらいの確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習指導案や本時のねらいの十分な理解</li> <li>○協議題・方法・形態の理解</li> <li>○自己課題の明確化</li> </ul>
実施 [Do]	<ul style="list-style-type: none"> <li>○協議会の進行</li> <li>○協議会環境の配慮や工夫</li> <li>○協議内容の集約や全員で取り組むべき課題の抽出→[行動化]への促し</li> <li>○意識調査の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○協議会への参加</li> <li>・自身の研究授業の振り返り</li> <li>・授業改善の模索</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○協議会への参加</li> <li>・研究授業や子どもの様子の振り返り</li> <li>・自己課題解決につながる内容の振り返り</li> </ul>
振り返り [Check]	<ul style="list-style-type: none"> <li>○協議会の成果や課題抽出(運営・内容)</li> <li>○参加者の意識調査を集約→[見える化]</li> <li>○次回協議会へ向け改善点を検討(「ミニ協議会」で出された成果・課題を反映)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業改善の具体的な見通し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自己課題解決策の具体化</li> </ul>
改善 [Action]		<p>協議会で得た内容を実践(「行動化」)し、「ミニ協議会」等で同僚と交流</p>	<p>意識調査の結果等も参考にして、つぎの協議会へ向けて同僚と交流</p>



上の表内にある「ミニ協議会」は前頁でも示しています。全体での協議内容について仲間内や学年会等、少数の先生方で気軽に交流する場と考えて下さい。先生方が日常的にされている教育課題等についてのインフォーマルな交流のことです。

この協議会は、「ミニ」と銘打っていますが、非常に重要な意味があると考えます。それは、日常的に行うことで、先生同士の情報の共有化を図ることができ、より多くの先生方と校内の課題等に対する合意形成(ベクトル合わせ)ができ、これまで以上に協働的な組織になることが期待できるからです。

# 3 「行動化」を促すには…

## (1) 「行動化」とは…



「行動化」ってどういうことですか？…それに協議会のあと、先生方の「行動化」を促すには、どうすればいいのですか？



「行動化」は、協議会で得た内容を単に知識として終わらせるだけでなく、自分の知恵として活用できるように、授業実践に取り入れることです。つまり、「知識を得る→行動(活用)する→振り返る(成果・課題)→知恵として活用できる」のように、「行動化」を自分の学習サイクルに組み込むことで、自己成長の自覚を図ることにつながるわけです。

「協議会の終わりが研修の終わり」ではなく、「協議会の終わりが授業方向上の始まり」というスタンスで臨みましょう。

## (2) 「行動化」を促す工夫



「行動化」を促す方法は多様です。協議会の直後に「声かけ」をして促すことも一つの方法です。ここでは、①「自己課題の解決へ向けた取り組み」と、②「学校の教育課題解決へ向けた全員での取り組み」の2方向に向けた工夫の例を紹介しましょう。

### ● 「行動化」を促す工夫：(例)

#### ① 自己課題

ア：声かけ

- ◎「自分の授業に取り入れたい点を探してみましょう！」
- ◎「明日からでも取り組めそうなことを考えてみましょう！」
- ◎「取り組むことは1つに絞りましょう！」

イ：研究推進部としてのしかけ

- ◎「自身の授業改善取り組みカード(※図3参照)」を配布する。

#### ② 学校の教育課題

- ◎協議内容から、全員が取り組むべき内容を集約し、全員で納得して取り組めるように、実際に行動できるよう具体的な行動目標を1つだけ提案しましょう。その結果を「ミニ協議会」等で共有化することも忘れずに！

いつまでに	○月○日(○曜日)までに
何を	板書を分かりやすくするために
どうする	毎日計画し、記録を残す
結果	板書の文字を丁寧に書くようになった
評価	板書が丁寧に分かりやすくなった。しかし、もう少し構造的な板書を心がけるとさらに良くなる(校長)

図3「例：自身の授業改善取り組みカード」

校長先生や教頭先生、同学年や同教科の先輩の先生方等に授業を見てもらう機会を持ちましょう。さらに、肯定的な評価や具体的な改善点等、適切な評価を受けることで、次への実践意欲も高まります。



# 4 協議会の「見える化」

## (1) 「見える化」とは…



「見える化」ってどういうことですか？…それに、何の目的で「見える化」をするのですか？

「見える化」する事で、協議会の状況を先生方全員が確認することができ、自校の協議会が次にどうなればよいのかが明確になります。また、次の段階への具体的な手立てを考える際にも活用できます。

## (2) 協議会の状況を「見える化」すると…

### ① 協議会に関する意識調査

質問 1～3 は、「協議会に対する参加者の意識」を聞いています。

質問 4～5 は、「協議会後の参加者の（「意識化」・「行動化」に関する）変容を聞いています。

質問 7～9 は、「協議会の準備状況」について聞いています。

	質問	平均値
1	積極的に意見交換を行った	82.4%
2	研修会の趣旨を理解して参加した	70.6%
3	協議内容を自分の事として捉えた	94.1%
4	協議会后、他の教員と協議内容を共有化したり、自分で振り返ったりした	66.7%
5	協議会で得た内容の授業への生かし方を考えた	93.2%
6	協議会で得た内容を何らかの形で授業に生かした	63.6%
7	協議内容が焦点化された協議会になっていた	93.3%
8	協議する時間が十分確保されていた	100.0%
9	協議会での各教諭の役割が明確だった	100.0%

他の項目に比べて、数値が低いことが伺えます。改善が必要な項目となります。

図1「見える化」の例：協議会に対する教師の意識調査

### ② 協議会のレベル表の活用



協議会のレベル表を作成する時のポイントは何ですか？

協議会のレベル表を作成する時のポイントは、①協議会への参加者の意欲や、②協議内容の深まり、③協議会の準備状況等を振り返り、協議会が次にどうなればよいのかが明確にし、先生方全員で共有できるイメージしやすいものがあります。まずは、自校独自のレベル表をイメージしてみてください。

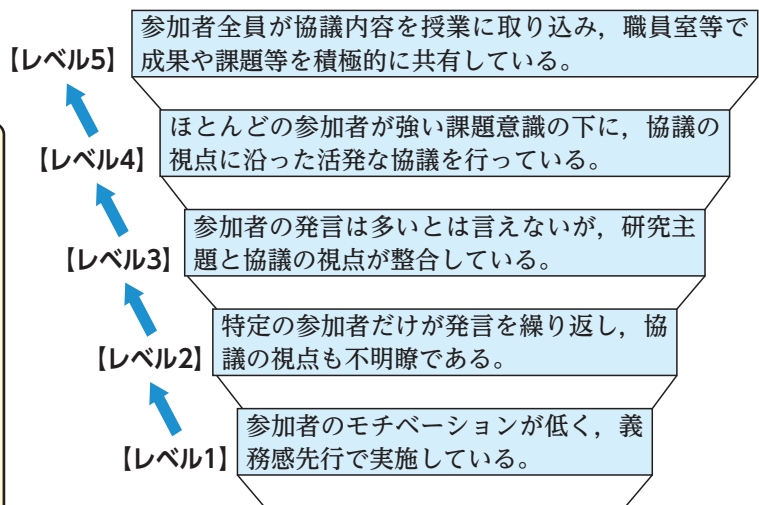


図2「見える化」の例：協議会のレベル表

## 5 学校における協議会の工夫



各学校では、具体的にどのような工夫をして協議会を充実させているのでしょうか。小学校と中学校の事例(一部)を紹介します。

### 【広島市立本川小学校：研究協力校校長 空間 浩道】

#### 【形態等の工夫】

- ①ワークショップ形式の協議会※を基本とし、各グループの構成を学年別にしたたり、教職経験年数別にしたたりと工夫・改善を繰り返し行った。
- ②研究授業の気づきを記した付箋を貼る台紙(模造紙)の様式を、協議題(協議の柱)や授業のねらいに合わせて改良をくり返した。
- ③協議が深まるように、二回の協議時間を確保した。  
：小グループでの協議 → 各小グループから出た意見等を集約 → 集約した意見等を全体で再度協議

#### 【協議内容の深化】

- ①研究部(研究推進部)は、協議の柱と協議内容が食い違わないように、事前に模擬協議会を行った。また、各小グループの付箋紙を回収し、研究授業を構造化し直した模造紙を会議室に貼った。
- ②協議会後には、学年会を「ミニ協議会」の場として位置づけ、協議会についての振り返り等を行った。



### 【広島市立中広中学校：研究協力校校長 河野 博史】

#### 【形態等の工夫】

- ①協議会を【学年会中心】、【教科会中心】の二種類を設定し、協働的な職場構築を目指す小グループでのワークショップ形態とした。なお、研究部(研究推進部)は、他の小グループとは違う視点で研究授業の分析を行い、協議内容の広がりや分析の深まりを追求した。
- ②拡大した指導案を準備し、研究授業の気づきを記した付箋紙を貼り、授業者の手だてに対する成果や課題を抽出した。また、授業に対する批判的な意見で終わらせず、改善策を加えたり、肯定的な評価を加えたりしながら協議会を展開した。

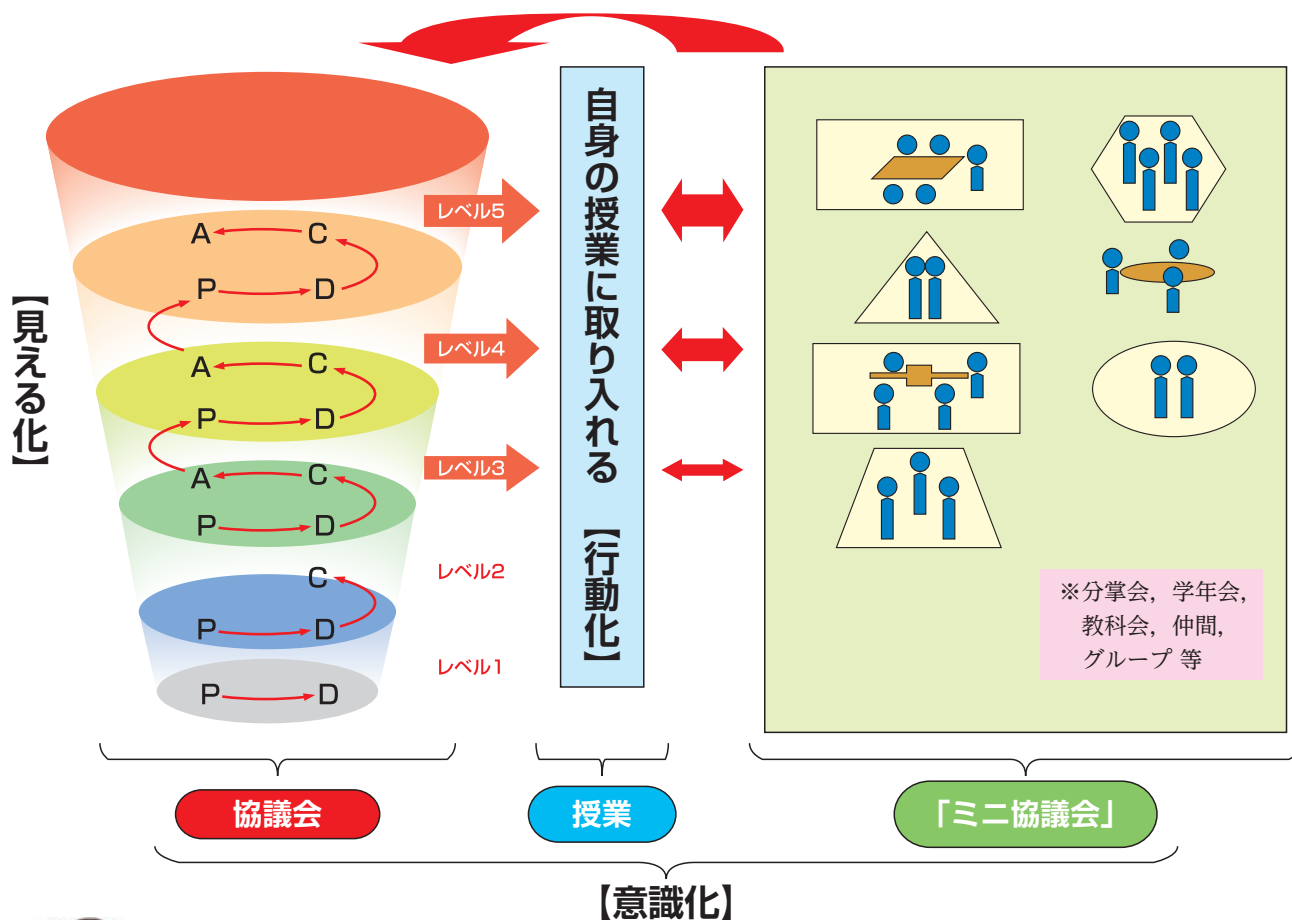
#### 【協議内容や知恵の共有化】

- ①共有化させたい知恵等については、協議会の計画(Plan)段階で研究部(研究推進部)の教諭が事前に検証し、効果が認められた内容を協議会の実施(Do)で吟味した。
- ②ベテラン教員の知恵(指示カード・がんばりチケット・『聞く』『話す』スキル等)を学校全体で共有するための場としても協議会を活用した。



※ ワークショップ形式の協議会の詳細については、広島市教育センターが刊行している『授業研究ハンドブックⅡ』(内部Webページ：<http://192.168.9.12/document/kenkyu/list14.html>)を参照ください。

# 6 まとめ：協議会・授業・「ミニ協議会」



上の図は、これまでの内容を図で示したものです。また下の【解説】は、協議会と自身の授業、そして「ミニ協議会」の関係について示しています。再度、全体を「意識化」してご覧ください。

## 【解説】

### ○ 協議会 について

【レベル1】や【レベル2】には、「改善(Action)」がありません。これでは、協議会をすることが目的になっており、次回の協議会等にもつながらず、「授業力の向上」は実現しにくいと考えられます。協議会を年間を通してPDCAサイクルで駆動させ、次につながる協議会を目指しましょう。

### ○ 授業 について

協議会に沿って抽出された提案内容等は、次の協議会等で共有できるように、各自が授業で実践しましょう。また、研究授業から得た授業者の様々な知恵についても、自身の授業に取り入れて実践してみましょう。多くの実践例が共有できると、「授業力の向上」につながると思います。

### ○ 「ミニ協議会」 について

「ミニ協議会」は短時間でも実施可能です。できるだけ多くの場面で交流することを意識してください。交流した内容は、次の協議会等でより多くの先生方と共有できますし、学校全体が今まで以上に協働的な職場になることも期待できます。

編集・発行／広島市教育センター

〒732-0068 広島市東区牛田新町一丁目17番1号 TEL(082)223-3563 FAX(082)223-3358

大学指導教官：広島大学准教授 曾余田 浩史

研究担当者：主任指導主事 島本 圭子 指導主事 正原 直行 指導主事 清水 剛